

郷土の、木になる。太く、高く、強く。

愛する郷土(コミュニティ)に、ビジネスという木を植える。

郷土は、過疎や高齢化といった問題に直面し、ビジネスの手法による活性化を渴望しています。さつま“遊学”塾のカリキュラムは、優秀なビジネスマンのコミュニティビジネス(以下CB)起業家への転身をサポートします。

1週目: 種、土、機、肥

種を蒔く

実践起業学：松村一芳

どんなにいいビジネスモデルがあっても、どんなにいい技術があっても、「起業家精神」という種がなければ経営は成り立たない。広告プランナー 自然農法 NPO 経営という経歴を辿っている講師が、体当たりで起業家精神を語る。「そもそも何のためにビジネスを行うのか？」

土を知る

郷土経営学：原口泉

薩摩の、「義」や「徳」を重んじ、進取の気性溢れる風土は、幕末に西郷や大久保といった近代日本を「起業」する人材を輩出した。薩摩の歴史研究の第一人者である講師による、薩摩の郷土精神を現代経営に生かす手ほどき。

機を掴む

CB概論：鳥丸聡

植物は絶妙の機を掴み芽を出し、伸びる。九州随一のシンクタンクとしての実績を持つエコノミストである講師が、ビジネスの手法による郷土の再生の可能性をミクロ・マクロの両面から説く。時代は、ビジネスに社会性を、地域活動にビジネスセンスを求めている。CBには好機である。

肥料を与える

リソース管理・運用：松村一芳

ヒト、カネ、モノなどの経営資源はビジネスという木を育てる肥料である。目的を達成するための手段として、何を、どのように、どれだけ獲得・利用するか、実際の経験を元にしたリアルな講義を行う。

2週目: 水

水を与える

実地研修：県内CB4社

日本社会においてCBという芽は始めたばかり。CBを生業とする人口は6万人。全人口のわずか2,000人に1人。しかし、しっかりと地域に軸足を置き、シビアなビジネスの世界に挑み、生計を立てている先駆者がいる。実地研修ではそんな先駆者を訪問、生の声を聞き、「勇気」という名の水を、事業の種に与える。

3週目: 根

根を張る

ビジネスモデルワークショップ：松村一芳

ビジネスの実行を木の幹とすると、ビジネスモデルは根の部分にあたる。思慮を尽くし、講師や仲間との議論を重ね、情報を収集・精査することにより、ビジネスのWhy,What,Howを明確にし、モデルを構築する。講師・各種専門家による個別コンサルティングを最大限活用し、根を深く、強くする。

4週目: 芽

芽を出す

CB事業プレゼンテーション

ついに外の世界に芽を出し、自らの事業を世に問う。一同に会した事業家、メディア関係者、行政職員などに対する真剣勝負のプレゼンテーション。厳しい評価を受けるかもしれない、思った反応を得られないかもしれない。それでも諦めない芽は枯れない。「泣こかい、飛ばかい、泣こよりひっ飛ば」

仲間作り

同じ志を持ったクラスメイト

定住準備

地域情報、自治体・コミュニティ紹介

修了後: 幹、枝、葉、花、実

ビジネスセンスを生かし、次世代に引き継ぐ元気な郷土を創る、CB起業家という生き方。さつま“遊学”塾の仲間と共に。